

マーク・アンダーラインの指示について

1. 4色のマーカー・ボールペン

事前に、ブルー・ピンク・オレンジ・グリーンのマーカー、黒・青・赤・緑の4色ボールペンを購入して頂きたいと思います。

なお、下記の3(1)(2)における色分けがこれまでのご自身の色分けと合わない場合には、ご自身の色分けに従って頂ければと思います。

2. マークとアンダーラインの違い

マーク箇所の方が重要です。まずはマーク箇所から優先して記憶し、マーク箇所の記憶が定着してきたら、アンダーライン箇所まで記憶範囲を広げます。

マーク箇所は、正確に記憶する必要があります。太いマークと細いマークとの違いは、正確に答案に書けるように記憶する重要度の違いによるものです。

これに対し、アンダーライン箇所は、余力があれば、ある程度不正確でも構わないから記憶しておくというイメージです。

3. 色分け

(1) マークの色分けの意味

ブルー	論証集の記述のうち、最も正確に記憶する必要があります。主として、定義、判例・学説の規範、条文知識などです。 原則・例外のうち、原則部分について使うこともあります。
ピンク	条文の趣旨、論証の理由付け、判例の当てはめ（積極方向の事実・評価）などです。
オレンジ	反対説、反対利益、判例の当てはめ（消極方向の事実・評価）などです。 原則・例外のうち、例外部分について使うこともあります。 ブルー&ピンクの反対に位置することに使うというイメージです。
グリーン	問題意識、テクニカルタームなどです。 4色の中で最も使用頻度が低いです。

(3) アンダーラインの色分けの意味

黒	条文知識、論点の結論、余力があれば記憶してほしい規範などです。
青	条文の趣旨、論証の理由付け、当てはめ（積極方向の事実・評価）などのうち、余力があれば記憶してほしいことです。 原則・例外のうち、原則部分について使うこともあります。
赤	反対説、反対利益、判例の当てはめ（消極方向の事実・評価）などのうち、余力があれば記憶してほしい箇所です。 原則・例外のうち、例外部分について使うこともあります。 黒・青の反対に位置することに使うというイメージです。
緑	問題意識、テクニカルタームなどです。 ほとんど使うことがありません。